

Web でつながる授業ー学び

水田記念図書館長 関 俊暢

新型コロナウイルス感染防止を考慮し、今（5/28 時点）、大学は学生の入構禁止、図書館も閉館状態になっています。5/11 から全学で Web を用いた授業が開始されていますが、学生がいないキャンパスは大変寂しく、学生だけでなく教職員も不安な気持ちを抱えての新年度です。6 月からは学生の入構禁止は一部解除される予定ですが、まだ状況は不確定であり、いつ本来のキャンパスの姿に戻れるかは不明です。その状況下、城西大学の教職員は、一丸となって、学生の皆さんに安心して有効な教育を提供できるように工夫・改善に取り組んでいます。

本格的な Web 授業は多くに教員でまだほとんど経験がなく、そのため各教員が実験的取り組みも加えながら効果的な Web 授業を模索している状況にあると思います。その過程で分かってきたことが個人的に 2 つあります。

- ・教室で学生たちの顔を見ながら話す場合と比べて、Web で教員が一方的に話すと、時間あたりの情報量は 3 倍近くになってしまいます。

- ・ライブで授業を行うとき、学生にチャットの書き込みを許可すると、学生は色々コメントをくれます。教室で「何か質問はありませんか」という問いに答えられることは稀ですが、チャットは本当にアクティブです。その多くが授業を助けてくれます。

城西大学は 90 分授業ですが、この時間を教員が情報を伝えることだけに使うと、過剰な情報提供になってしまいます。ですので、その時間は 30 分程度に抑え（それでも十分な量の情報提供は可能です）、残りの時間を学生自身が考え、理解を確認できるように、演習や質問に当て、チャットなどを利用して疑問点を受講者全体で共有すると、教室で行ってきたものより、より能動的で高い教育効果が得られる授業も可能ではないか、そのような期待を持ちつつあります。

Web 授業で問題になるのが、学生への教材の提供です。必要な教材を全て教員が直接学生に配布するには大きな負担が生じます。水田記念図書館では、多くの電子書籍や電子ジャーナルとの契約を結んでおり、学生が自宅から直接それらの情報にアクセスする方法も提供しています。図書館が、皆さんの有効な Web 学習に役立てればと思っています。